



井上 道義の 未来だった今より

音楽家にユダヤ人が多いのは常識だが、もう一つ常識なのが、良い音楽家には同性愛者、すなわちホモセクシュアルがかなりいるということ。僕は違うんでスラスラ書くが、例えば先日金沢に来た86歳の素晴らしい感動的なピアノを弾くチッコリーニ氏もそうだ。昔から仲のいい「彼」が一緒に行動していて、いろんな面倒を見てはほほ笑ましい。僕も若い頃はかなり誘惑？されたが、彼らは総じてとても優しく、相手の気持ち分かり、頭もセンスも良い。いわゆる最近の草食系と言われる男どもの存在の薄さとは逆で、悪びれず人生に真剣な人がほとんどだ。

クラシックの大きな潮流のなかに宗教音楽があるが、そこでは昔のエリートヨーロッパ人の共通語であったラテン語が重要な位置を占めている。そのラテン語でホモは人間そのものを意味

♪ 人 || ホモ

するから、宗教曲にもホモという文字が出てくる。〈Et incarnatu est de Spiritu Sancto ex Maria Virgine et homo factus est.〉。バージンのマリアから肉となって人(ホモ)が造られたという部分だ(わざと乱暴な訳です)。もちろん前段に「我々人類のために天から降臨して」とあるが。

近年、旧来の日本語でなくとも差別語だとか言って、今の時代の好き嫌いで言葉を自粛することが多いが、そんな言葉狩りには反対だ。歴史を都合良くねじ曲げる結果になるからだ。ところでバリバリ人生を楽しみ、長生きしているホんモの男は、実は肉をしっかり食べている人が多い。草食系は元気も出ないし長生きもしない人が多い。少なくとも僕の周りにはですが！

(オーケストラ・アンサンブル金沢)
音楽監督

金沢大学 探訪

28

大学の役割は教育・研究・社会貢献と答えていたが、今ではここに「学生の成長支援」が入る。国の未来を担う若い世代を大きく育てることも、大学に課せられた使命だ。

文部科学省は2007年度から、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援G.P.)」という競争的資金を募集。本学では、保健管理センターが中心となり「心と体の育成による成長支援プログラム『社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成』」を応募し、採択された。これは4年間の事業で、イン

学生の成長支援も担う

保健管理センター 吉川弘明教授

フラとしてのコミュニティ施設「学生支援センター」や角間キャンパスのバスを交流を促進する「健康バス」を整備。「健康実践」などの講座や「自己管理能力」を育成する試み

いしかわスクエア